自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(青い鳥ユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和7年2月7日	評価結果市町村受理日	令和7年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ふるさとでは、安心安全な中、個々の能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなど役割を持って頂きながら、ゲームや制作、レクリエーションを楽しみ日常生活にメリハリをつけ活き活きとした毎日を送り、できている事が長く継続していけるよう自立をサポートしていきます。
- ・ふるさとでは、アットホームな雰囲気の中、ゆっくりとした時間を過ごして頂きプライベートな空間(居室)では、馴染み深い家具や写真を置くなどして自分らしく安心して寛ぐことができる環境作りに努めています。
- ・家族や地域との結びつきを大切にしながら喜怒哀楽を共にし信頼関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

樹木のある遊歩道に面し買物や飲食などの商業施設に程近い距離にある2ユニットの事業所である。様々な企業が混在する3階建て複合型建物内にあり、事業所は1階の会議室と2階にユニット同士が向かい合わせでつながり、緊急時や合同行事等の連携もし易い造りである。共用空間は広く、他者との関係性に配慮した食席等の配置や身体状況に応じた動線の確保もゆとりがある。地域との相互交流を再開し、町内会の夏祭りへの参加や傾聴ボランティアの受入れ、毎月オカリナ演奏会を開催している。外出支援もかつて同様に力を注ぎ、風光明媚な場所や観光地の他、大型スーパーマーケットが会場の写真展に出向いた際には甘物も味わい、更に笑顔が増す1日となった。行事や家事作業、ゲーム等で利用者の持てる力の発揮や活躍できる場面を整え、生活に充実感や満足感が持てる支援にも余念なく取り組んでいる。調査当日の各ユニットお茶タイムでは、利用者同士の途切れない会話や利用者其々リラックスした体勢で職員と会話するなど、アットホームな雰囲気が窺えた。独居で寡黙、閉じ籠りであった方が利用開始後の職員の関わりで他の利用者への気遣いや朝のモップ掛けの家事も可能となった事例もある。毎月、精度の高いモニタリングを実施し根拠を明確にしたケアマネジメントに優れている。モニタリング表に個別の手紙を添え毎月の家族への送付も継続している。理念の一つにある「そして私たちはいつも皆さんのそばにいます」を感じ取れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を理解しそれに沿って日々実践している。	5項目の施設理念を標榜し、パンフレットへの明示や事業所内要所へ掲示している。入職時研修で理念について学ぶ機会がある。管理者は、有料職業紹介事業所派遣職員へも理念についての学びを加え、事業所全体のものとする事としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや傾聴ボランティアの訪問・オカリナの演奏会の方々と交流する機会を設けている。	笑顔の花咲く写真展の出展や会場見学、町内会のお祭りへの参加や、町内会から芋の寄贈を得ている。傾聴ボランティアの訪問や毎月、講師を招いてのオカリナ演奏会を開催している。高校生の実習受け入れも実施するなど事業所資源を還元している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の様子はブログを発信している。又、町内会の行事参加を通じて、夏祭りでは子ども神輿の休憩所に事業所駐車場を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度(年6回)の開催で、取り組みや状況・近況報告にて意見交換をしながら話し合いを行いサービスの向上に活かしている。	会議は、市介護福祉課、地域包括支援センター、町内会長、家族の参加を得て参集にて開催している。入退職を含む職員状況や利用者状況を詳細に報告し、意見交換の内容を議事録に載せ、関係者へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いており、情報を共有しながら協力関係が築けていると考えている。又、意見交換や運営に関しての助言なども頂きながらケアに活かしている。	大本の運営上の案件は法人本部やエリアマネージャーが行政各担当部署に出向いている。管理者も各種書類の提出や個別案件では直接、担当者へ意見等を仰ぐなどし、課題解決に向けた協力が得られている。年2回のGH連絡会の会議・研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の不適切防止委員会の開催と6か月に1度の職員研修を実施し、全職員が意識し取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、定期に不適切ケア防止(身体拘束適正化・虐待防止)委員会を開催し、委員会では事案要素を抽出している。予防・防止に関する業務内での取り組みを協議し、適正化に努めている。年2回これらに係る内部研修を実施している。防犯上の理由により1階玄関は24時間施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止研修を通して学び、虐待が見逃ごされることがないよう意識し努めている。		

ふれあいの里 グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、役職者のみ研修に参加し該当する入居者様の担当者(後見人・保佐人)と話し合いの場を設け、必要性を理解し活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、改定含め不安な事や疑問点などないか確認しながら理解・納得が得られるよう十分説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の他、運営推進会議や面会に来られた際には、ご家族から意見・要望を聞き取り反映させるよう努めている。	暮らしの様子はブログでの発信や、家族へは毎月、詳細なモニタリング表と個別の手紙を送付し意見を出し易くし、出された意見等は適宜、反映している。利用者からは「ここは良い所だ」と暮らしに対する言葉もある。「帰りたい」には安心できる言葉や、家族とも連絡を取り合い、職員と一緒に自宅まで同行した実例がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会議の中で意見を出し合ったり、業務改善に向けての話し合いを行うなど、提案を聞く機会には設けている。	管理者とユニットリーダーが定期及び必要時に職員との個別面談を実施している。全体会議の他に、生産性向上委員会では、利用者の安全及びケアの質の確保について協議がなされている。人数不足の中での入浴支援のあり方を検討し、入浴時間帯の見直しに至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	どこまで把握されているか分からないが、資格取得への支援制度・給与面や条件などの見直しなど行い、向上心を持って働けるよう努めていると思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず、初任者研修など介護の実践や知識向上に役立つ研修を受ける機会を与えてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加も増え、同業者と交流で意見交換などの機会が持っている事で、サービスの質を高めていく取組に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の事前面談で不安に思う事や要望を聞き取り、入居初期でも安心が確保されるよう関りを多く持ち信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談を受けた段階で、いま困っている事や不安・要望を聴き、入居後も連絡を密にとれる関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族に必要な支援が見極められるよう、ケアマネを含む関係者と連携を図り情報収集を行いながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護する側される側という意識は持たず、日々日常生活を過ごし喜怒哀楽を共にし、互いに支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも安心して頂けるよう面会時や毎月のお手紙を利用し、家族との関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた人や場所の関係・記憶が途絶える事のないよう、友人・知人の面会もあり、大切なご家族との外出・外泊も実施し支援に努めている。	面会制限が緩和され家族とゆっくり対面する時間が持てている。友人が訪れ、その後、葉書が届いた利用者もいる。電話や手紙の取り次ぎや、携帯電話を所持している利用者は自由に通話が出来ている。家族と一緒に外食や買い物、一時帰宅や外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格を把握しながらトラブルにならないよう職員が間に入ったり利用者同士で会話が続くよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が退去された方々と直接関わる事は有りませんが、管理者は関係性を断ち切ることなく必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を把握し、意向に沿っていけるよう検討しながら、一人ひとりの生活スタイルに合わせ変化にも対応できるよう努めている。	直接本人に暮らし方の意向等を聴取し把握に努めている。要介護度の高い全介助の利用者へも日々言葉がけを続け、一例ではあるが「美味しかったよ」と、時折、応えを得ている。新たな発見や日々の情報を共有し意向にそう支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族から聞き取りを行ったり、フェイスシートなどで情報収集し全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況・状態は記録に残し、変化などあった際には申し送り共有出来ている。又、個々の有する力については日々観察し情報を共有しながら自立支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、担当職員が毎月実施し会議などを通して意見交換を行い、介護計画に反映させている。又、ご本人・ご家族からの意見や要望を聞き取りながら個々に合った介護計画を作成している。	アセスメントはセンター方式と別途の書式で課題分析し備考欄に計画につながる内容の記載がある。モニタリングは大変詳細で状態像が可視化でき、毎月家族へモニタリング表を送付している。本人、家族の要望等を反映した現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した事はもちろん、日々の過ごし方や本人の発した言動などを記録し職員間で共有し、介護計画の見直しなどに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りで、日々の変化に対応しながら、柔軟なサービス提供を実施していけるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアやオカリナ演奏の方々から協力を得て日常的に楽しんだり、地域の行事にも参加する事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明の中で、本人・家族の意向を尊重する為、かかりつけ医の選択をして頂いている。入居後は状態に応じて受診・往診に分け事業所とかかりつけ医で情報を共有し適切な医療が受けられるようにしている。	協力医療機関(内科・歯科・皮膚科)による定期又は必要時の訪問診療の体制を整えている。月に1度歯科医院より口腔衛生管理体制による助言や指導を得ている。看護師が職員配置され、受診支援を行っている。適宜、家族と医療情報を共有している。	

ふれあいの里 グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化など看護師に報告・相談して指示を仰ぎ必要に応じて受診などの対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関へ介護添書やフェイスシートなどで情報提供を行い適切な看護が受けられるようにし、早期退院に向けて病院関係者との情報交換や相談をしながら関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態に変化が見られた際には、早い段階で本人・家族と話し合い意向を確認している。又、出来る事・出来ない事を明確にしながら訪問看護を利用するなどの支援に取り組んでいる。	利用契約時に「ご利用様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。利用者の状態変化に応じ、医師の判断の下に関係者全体で今後の方針を取り決めている。協力福祉施設である療養型老人保健施設と連携し円滑な移行支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、全職員が対応できるよう周知しているが定期的な訓練は行っていない。又、特定技能実習生や新人職員が多い事もあり実践力を身に付けるまでに至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施で避難の方法は身につけられるよう取り組んでいるが、十分とは言えない。	R6年6月、夜間想定火災避難訓練に建物所有者も訓練に参加し、R7年1月は、日中想定火災避難訓練を実施した。其々、消防設備業者の立ち会いを得ている。災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画を策定している。BCP訓練を動画研修等で実施している。	①地震発生時の初動対応等が適切に行えるか、実際の訓練実施に期待したい。②消防署へ訓練立ち会いの要請を行い、適切な避難誘導の方法やその習得に向けた訓練実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自由と尊厳を理念に掲げ、一人一人の性格を理解しながら人格や思いを尊重し不快を与えないよう言葉かけや対応に努めている。	職員は接遇に係る法人内研修や不適切ケア防止研修にて学んでいる。理念の1項目には自由と尊厳を掲げ、意識づけしている。有料職業紹介事業所の臨時職員も尊厳等に係る身体拘束・虐待等を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を最優先しつつ、危険のない限りで自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入居者中心で、一人一人のペースを乱す事のないよう、危険のない限りでその人らしく過ごして頂けるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みのものを聞いたりしながら、身だしなみやオシャレができるよう支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の能力に応じて調理の準備や盛り付け・片づけを一緒に行えるよう支援し、食事と一緒に楽しむことが出来ている。	栄養バランスのとれた献立で提供し、敬老会は各々好きな寿司セットの出前や事業所夏祭りに屋台風献立を楽しんでいる。食事作業は利用者の力を発揮できる環境を整え、芋餅や手綱蒟蒻の作り方など、昔取った杵柄を披露する機会もあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による管理のもと栄養バランスの取れた食事を提供しています。無理なく一人ひとりに合わせながら提供し、状況に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせてながら、声掛けや介助にて実施し残存歯やう蝕の把握にも努めている。また義歯洗浄も合わせて実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、出来る限りで紙パンツの使用を減らせるよう取り組んでいる。又、トイレでの排泄を大切に誘導や介助を実施している。	尿意、便意を失念している利用者へは排泄記録にて排泄間隔を把握し時間等を見計らいトイレ誘導している。本人ができる部分は見守りしできる力を落とさない自立支援に努めており、排泄が自立している利用者もいる。排便コントロールが必要な利用者は別途チェック表を用い適切な排便支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた飲食の状態を把握しながら、摂取量や排便間隔をチェックし、看護師に相談しながら予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けに工夫しながら、体調・本人の意向などにも留意し定期的に実施できるよう努めている。	曜日を特定せず午前から午後の時間帯に、1人週に2~3回又は隔日に入浴する方もいる。好みの湯加減や同性介助に対応し、馴染みの湯道具を浴室に持参する方もいる。入浴の声かけから浴後のドライヤーまで同じ職員が対応し、会話が弾む時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向や体調に合わせてながら静養出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員が理解できていないが、不明時は看護師や薬情で確認しながら理解に努めている。また、飲込むまで見守りを行っている。		

ふれあいの里 グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かした役割など一緒に考え、モップかけ・食器洗いなど出来る事をして頂いている。又、時にゲームなどして張り合ったり楽しみながら過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など、できる限りで希望に沿った支援が行えるよう努めている。又、笑顔の花咲く写真展や地域の祭りへ出かけるなどの外出支援も実施している。	玄関先の植栽コーナーにある花・野菜の手入れや収穫、外清掃を行ったり、散歩は事業所周辺を回り、目に映る花々の名前を職員に教える事もある。町内会夏祭りや埠頭のある公園、金太郎池への外出も再開している。笑顔の花咲く写真展会場に出かけ、フードコートでのソフトクリームも楽しい時間となり喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を身につけている事で安心できると理解し、事前にトラブルに関する説明をした上で同意を得られた際には、所持している。又、希望に応じて一緒に買い物に行き支払いを見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持している方もおられ、自ら家族や知人に電話ができる環境にある。また、手紙が届いた際には、お渡しし本人に管理して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を与える事のないよう、心地よい空間づくりに入居者と共に考えたりしながら季節にあわせた展示物を飾るなど日々工夫している。	共用空間のリビング・ダイニングにはセミパブリック的に設えた談話コーナーもあり、利用者の居場所作りへの工夫や、両ユニットはホールでつながり、合同行事等でも交流し易い。利用者手作りの季節感ある壁面制作などの作品類を掲示し、カレンダーや時計の設置も利用者の目線に配慮し、適宜の換気や温湿度調整など空調管理にも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人が思い思いに過ごせるように、食席の他にも複数ソファを設置し、共用空間では自由に過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に、ご自宅から入居となった方にはできる限り自室で使っていた馴染みの物を持って来て頂くよう伝え、不安なく安心して過ごせるよう工夫している。	居室には防災カーテン、照明、ナースコールの備え付けがある。利用開始時に馴染みの物や使い慣れた品々の持ち込みを依頼し、本人の安心できる環境を整えている。利用者の身体状況に応じて、混乱なく、安全に生活できる動線や空間作りを家族と相談しつつ設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の席が分るよう椅子に名前をつけている。また遊び道具を1か所にまとめ、わかりやすく且つ自分で取り出しやすいようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(憩いユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和7年1月30日	評価結果市町村受理日	令和7年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ふるさとでは、安心安全な中、個々の能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなど役割を持って頂きながら、ゲームや制作、レクリエーションを楽しみ日常生活にメリハリをつけ生き生きとした毎日を送り、できている事が長く継続していけるよう自立をサポートしていきます。
- ・ふるさとでは、アットホームな雰囲気の中、ゆっくりとした時間を過ごして頂きプライベートな空間(居室)では、馴染み深い家具や写真を置くなどして自分らしく安心して寛ぐことができる環境作りに努めています。
- ・家族や地域との結びつきを大切にしながら喜怒哀楽を共にし信頼関係を築いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsvcoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内2か所に理念を掲げ実践に繋がられるよう管理者・職員共に共有できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的なボランティアさんの受け入れや町内の夏まつりなどの参加で交流している。又、今年は毎年出展している写真展を入居者様と一緒に見に行く事ができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の様子は月に1~2回ブログを更新し発信している。夏まつりでは子供みこしの休憩場所として事業所前の駐車場を利用して頂き地域貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者や職員情報の報告等を毎回行い意見交換している。会議の議事録はご家族にも送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き意見交換や情報共有を行いながら協力関係を築いている。又、案件などの相談にも対応して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な不適切ケア防止委員会の開催と研修を実施しており全職員が意識してケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な虐待防止の研修を行い学びを深めており、気づいた事は共有し注意し合えるように努めている。		

ふれあいの里 グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加や対象となる入居者の関係者との話し合いを通して必要性について活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等があった際には、事前に文書で知らせていて契約時には十分な説明を行い、疑問点など聞きながら理解・納得が図れるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際やケアプランの説明時等には意見や要望を伺えるよう努め職員間で共有できている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議にて意見を出し合ったり日々の業務での提案等を活かすなどしている。又、職員から意見や要望があった際には聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望する勤務形態や休日の取得等、職員の状況を尊重しており働きやすい環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの実施や個々に合わせた研修の提示、外部研修に参加の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加が増えた事もあり同業者との意見交換等の機会をもつ事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談による聞き取りを行ったり、関わりを多く持ちながらなんでも話せる雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を伺い不安や困りごとを聴き入れ、解消して頂けるよう連絡を密に取るなどしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に必要な支援を見極められるよう主治医やケアマネ等との連携を図り情報収集しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事を大切にしながら支援している。介護する側、される側という意識を持たず一緒に楽しく過ごす時間を設け喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の様子を手紙等で伝え、共に相談等し合いながら協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方からの親族や友人の方との面会も行って頂いている。又、ご家族との外出、外泊も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や相性を把握しながら食席の調整をしたり、孤立しないよう職員が介入し関わりが持てるよう援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、関係性を断ち切らない旨を説明した上で、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を傾聴し意向に沿えるよう努めている。言葉にすることが難しい場合は表情や言動から思いを汲み取ったり家族からの情報をもとに検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取りやフェースシート等で情報の確認を行っている。サービス利用後も定期的にシートの更新を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の過ごし方については申し送りにて共有し、その人のできる事できない事を把握し自立支援に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行い、家族の意向や会議で職員の意見交換を通して本人が安心できる介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践はもちろん入居者の言葉は記録し共有しておりそこから気づいた変化等は個別ファイルへの記入、更新を行い介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の状態に応じて一緒に買いに行ったり代行するなどしながらその時必要な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オカリナ演奏や傾聴ボランティアさんの協力を得て楽しんだり地域の行事への参加も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を変更するか否かは本人・家族の意向を第一に尊重している。個々の状態に応じて定期受診・臨時受診・往診を実施し、結果は医療情報ファイルに記入して共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や経過・気づきは随時報告・相談しており必要な受診やケアの対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要に応じて介護添書の作成を行い適切な医療看護が受けられ且つ早期に退院できるよう対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はできる事とできない事を明確にし家族の希望を尊重しながら、訪問看護を利用するなど支援の方法を考え取組み実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し周知徹底を図っているが定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し避難方法は身につけているが、十分な取組みに至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自由と尊厳を理念に掲げ、一人ひとりの生活歴や性格を理解しながら自尊心を損なわないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けや環境作りを工夫しながら自己決定して頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを把握し本人の希望を取り入れながらその人らしい過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には入浴時や更衣の際に衣服を選んで頂いている。2ヶ月に1回出張理容にて散髪を実施している。		

ふれあいの里 グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節の行事にちなんだものを楽しみ、その人の能力に合わせて調理準備や盛り付け下膳等を職員と一緒にできるような援助している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎回記録しており状態の把握に努めている。その人に合った量や形状での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度声掛けを行いその人に合った口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を記録して把握し職員間で共有している。車椅子の方でもトイレでの排泄が継続できるよう支援していて、可能な限りでオムツの使用を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については看護師や主治医に相談し助言を頂きながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度時間帯は決まってしまうが、ほぼ毎日入浴支援は行っており、入浴拒否される入居者には無理強いをせず別日で入ってもらおう等の支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握しその時の状態に応じて気持ち良く休息を取って頂いたり夜間ゆっくり休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要に応じて薬情の確認をしたり、薬の変更・追加等は必ず申し送りして症状の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニットや居室のモップ掛け・食器洗い等できる事を行って頂いたり体操やレクリエーションに参加し楽しんで気分転換して頂けるよう支援している。		

ふれあいの里 グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、花壇の水やり・プチマトの収穫などを行っている。複数人で写真展を見に行ったり、家族の協力にて一時帰宅や配偶者の面会等もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事が安心感に繋がると理解している。入居者の希望を取り入れ必要なものを代行し購入したり一緒に買い物に出掛け支払いを見守る等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を使用して頂けるよう支援している。郵送で届いた手紙や葉書は本人に渡したり居室の壁に貼っていつでも見れるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し、消毒・換気を行い清潔を心掛けており季節に合わせた飾り付けを行ったり写真を展示するなどして、日々工夫して心地よい空間づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でもソファを複数置く事によりひとりの居場所になったり、DVDやTVを皆が思い思いに楽しめる場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながらできるだけ使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、仏壇、写真等好きなものに囲まれ心地よく過ごして頂けるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	補助具や車椅子でも安全に移動できるような家具の配置をしたり、自分の部屋が分かるように目印になるものを飾ったり工夫している。		